

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

・該当なし

II 2015年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2015年度大学評価結果総評】

キャリアデザイン学研究科は、2013年度に経営学研究科より独立した比較的新しい研究科であり、段階的にその教育・研究内容を充実・深化させている。キャリア教育・発達プログラム、ビジネスキャリアプログラムの2つのプログラムから構成され、それぞれ科目が設定されており、コースワークとしてのカリキュラムは充実しつつある。一方で、修士論文などのリサーチワークについては、その教育方法について、担当教員に委ねられている部分が多く、定期的な発表会での相互研鑽の場を除くと、学科全体として共有されている部分が少ないともいえる。また、グローバル化において、留学生の受け入れのみでなく、グローバルなキャリア形成のために海外の機関との連携も視野に入れた今後の展開などを期待したい。キャリアデザイン学研究科教授会規程を整備することと、学部生の入学受け入れについての議論が今後の課題になるかと思われる。

【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

カリキュラムでは、2015年より新たな教員が採用され、コースワークとしてのカリキュラムは更に充実しつつある。修士論文指導は、担当教員による指導だけではなく、研究科の他教員からも論文構想発表会・中間発表会などにおいて、詳しく個別のフィードバックを受ける機会があり、研究科全体で院生の研究指導をきめ細かく丁寧に実施している。学部との連携に関しては議論が行われており、継続して今後の検討課題としたい。研究科のグローバル化に関しては、留学生の応募者は存在するが、残念なことに入學には至っておらず、今後も継続してグローバル化へ向けた努力課題とする。

III 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教員像および教員組織の編制方針】（2011年度自己点検・評価報告書より）

キャリアデザイン学という学際的な領域の性格上、経営、教育、文化、心理の専門分野の教員組織で教育・研究指導を行なうことが教員組織の編制方針であり、教員には経営、教育、文化、心理の専門領域での学識に加えて、各領域を横断する学際的な研究・指導のセンスと実績がもとめられるところである。

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

2011年に大学院担当教員の基準を明記、資格要件、求める能力・資質を明確化している。基準に基づき高度な専門性、優れた業績をもつ研究者、調査・研究の指導が可能な教員を採用し適正に配置している。

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

執行部は研究科長、専攻副主任の2名から構成され、大学院教授会は月1回開催されている。その他の教員の担当する役割分担は次の通りである。質保証委員、進学相談委員、入試サポート委員（入試当日の事務担当）、入試作問委員、シンポジウム委員、修士論文発表会委員、修士論文研究成果集作成委員など、各教員の担当する役割とその内容を明確化し責任体制をとり適正に実行している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。
キャリアデザイン学研究科は2つのプログラムより構成されている。ベースには基礎科目、共通科目を配置している。

これらを担当する教員は専門性の高い教育学、経営学、隣接学問分野（心理学・社会学）等の教員であり、当研究科のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学研究科 要項、履修手引き、カリキュラムと担当教員一覧
- ・下記、2015 年度研究者指導教員数一覧（専任）を参照

2015 年度研究指導教員数一覧（専任）

(2015 年 5 月 1 日現在)

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	設置基準上必要教員数	
			研究指導 教員数	うち教授数
修士	17	12	5	4

研究指導教員 1 人あたりの学生数：2.18 人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】※ない場合は「特になし」と記入。

教員採用に関しては、学部の教員採用とも密に関係づけながら、若手研究者を積極的に採用しており年齢的偏りはない。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

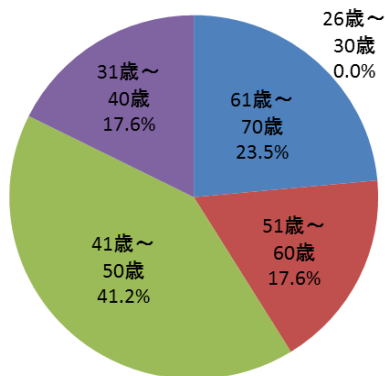
- ・特になし、下記専任教員年齢構成一覧参照

専任教員年齢構成一覧

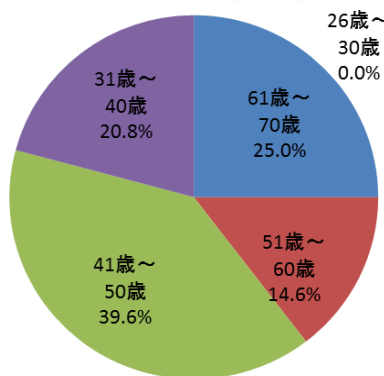
(5 月 1 日現在)

年度\年齢	26～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳
2015	0 人	3 人	7 人	3 人	4 人
	0.0%	17.6%	41.2%	17.6%	23.5%

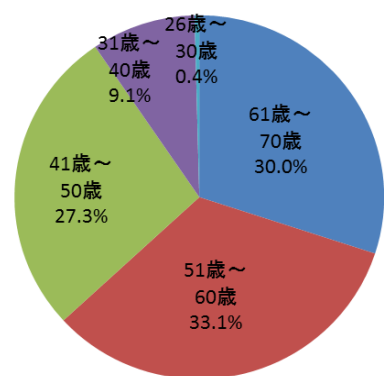
年齢構成比
(2015年度社会・CD)



年齢構成比
(CD過去3年平均)



年齢構成比
(2015年度全研究科平均)



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

- ・当研究科では 2011 年に大学院担当教員の基準を明確化し規定を整備している。規定に基づき適切に教員募集・任免・昇格は行われている。

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制】※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を簡条書きで記入。

- ・学部の専任教員採用の時には、大学院教育担当も兼ね大学院教育可能な研究者であることを前提とした採用を行っている。募集に際し、専門領域と大学院カリキュラムとの整合性を同時に勘案しつつ規定を参照しながら、大学院教授会において意見交換し、結果を学部の教員採用人事に反映している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①研究科（専攻）内のFD活動は適切に行われていますか。

A B C

<p>【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。 法政大学キャリアデザイン学会を独自に開催しており、広く学外にも公開しキャリア関連の研究者、実務家など先端的な研究業績を有する研究者等を演者に招聘し、学会活動を積極的に推進している。教員、院生、修了生、学内外の人々などと相互の自己研鑽を積極的に促進している。</p> <p>【2015年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。 ・キャリアデザイン学会の活動実績資料を参照</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学会活動実績資料</p>	
②研究活動を活性化するための方策を講じていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【研究活動活性化の取り組み】 ※箇条書きで記入。 ・法政大学キャリアデザイン学会の開催、大学院シンポジウムの開催、全教員・全院生参加による修士論文構想発表会・中間発表会の開催等により、積極的に研究活動を活性化するための方策を講じている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学会の活動記録、大学院シンポジウム資料</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

<p>キャリアデザイン学研究科の大学院担当教員の採用・昇格に関する基準は明確化されており、その基準に基づき研究科のカリキュラムにふさわしい適正な教員組織が編成されている。また、組織的な教育を実施するために、教務、入試等において必要な役割分担、責任の所在が明確にされ運営されており、適切である。</p> <p>教員採用では、若手研究者を積極的に採用しており、年齢構成は適切である。</p> <p>FD活動、研究活動の活性化のために、法政大学キャリアデザイン学会の開催、大学院シンポジウムの開催、全教員・全院生参加による修士論文構想発表会・中間発表会の開催等積極的な方策を講じている点は評価される。</p>

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>【教育課程の編成・実施方針】 基礎・共通科目をベースにキャリア教育・発達プログラム、ビジネスキャリアプログラムの2分野のプログラム科目を設置。それぞれのプログラム科目には、キャリア発達科目群、キャリア・プロフェッショナル科目群、キャリア政策科目群というマイクロ・メゾ・マクロの3分野からなる科目群を配置している。それらの科目の履修の上で演習科目において論文指導を行う。</p>	
2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 当研究科は①キャリア養育・発達キャリアプログラム、②ビジネスキャリアプログラムの2つのプログラムより編成され、各プログラムに対応するプログラム科目が設置されている。コースワーク基礎科目、共通科目が設置され、その上でリサーチワークに対する個別指導(修士論文指導、演習)を行っている。教育課程を体系的に編成し、関心のある研究テーマを掘り下げることが可能となるように綿密に組み立てられている。</p>	

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学研究科 カリキュラム	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい いいえ
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・該当なし（博士後期課程は設置していない）	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	A B C
（～400 字程度まで） ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 ・該当なし（博士後期課程を設置していない）	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
①専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	A B C
（～400 字程度まで） ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 これまで兼任であった「キャリア調査研究法基礎」は、2015 年、専門性を有する教員を新たに採用した。また「産業・組織心理学」は専門性の高い教員を同じく 2015 年に採用した。調査研究法や心理学関連科目を一層充実させ、専門分野の高度化に対応した教育内容を提供している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学研究科シラバス	
②大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	A B <input checked="" type="checkbox"/> C
（～400 字程度まで） ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。 留学生の応募者も数名だけが存在するが、当日入試を突然棄権したり、また、残念だが入学合格基準を満たす質の高い留学生の応募者がいないのが現状である。キャリアデザイン研究科は、学生の質を重視し質保証の観点からも、現在留学生は存在せず、研究科のグローバル化には至っていない。今後は合格基準を満たす質の高い留学生の応募を期待し、入学チャンスを与え、グローバル化を積極的に推進したいと考えている。しかし、最近では院生の研究内容には、外資系企業の経営戦略など、グローバルな内容に関する研究が増えており、研究内容でのグローバル化は進展している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）および（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科の教育課程は、「キャリア教育・発達プログラム」と「ビジネスキャリアプログラム」の2つのプログラムからなるコースワークとリサーチワークが適切に組み合わせられ編成されている。昨年度一部の科目において、専門性を有する教員を新たに採用し、専門分野の高度化に対応した教育内容の提供を図っている点は評価できる。

大学院生の研究内容のグローバル化は進展しているものの、就業経験という受験要件を満たす外国人受験生の応募が少ないため留学生の入学に至っておらず、応募者を増やすために受験条件の広報を行うとともに、卒業後すぐの応募者を対象にするのではなく今までとは違う分野にいる外国人受験生獲得に力を入れ、学生の質を担保しつつ、教育研究のグローバル化への具体的な進展を期待したい。

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。 入学直後のオリエンテーションの時に、大学院要項、講義要項を参考にしながら、大学院での2年間の学習を展望した履修指導を行っている。シラバスに基づき、その場で全教員が授業概要を具体的に説明し、履修指導を適切に行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学研究科シラバス、入学時のオリエンテーション資料</p>	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【研究指導計画の明示方法】 ※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。</p> <p>上記に述べたように、新入生ガイダンスでは学習指導を詳しく行い、修士論文執筆に至る流れや学位取得への過程、学位取得基準を詳しく説明している。ガイダンス後には、その日の午後に開催されるM2の修士論文構想発表会に入学直後の1年生全員を参加させ、研究発表を聞かせている。そこでは、M2の研究テーマと概要一覧を配布し、大学院での今後の研究の計画・進め方の具体的参考とさせている。</p> <p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。 ・新入生ガイダンス資料</p>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>(～400字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。 新入生には具体的な学位授与基準をオリエンテーション時に明示し、学位取得に至る過程について詳しく説明を行っている。また、年3回(M1の研究構想発表会1回、M2の研究構想発表会、中間発表会合計2回)の修士論文構想発表会・中間発表会を全教員、全学生参加のもとで開催している。この発表会を、キャリアデザイン学研究科における院生の研究に対する集団指導の場としている。その後、研究計画に基づき、担当教員が個別に指導を実施し、修士論文作成指導を丁寧に実施している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <p>シラバスの内容については、執行部が詳しくダブルチェックし、改善すべき点があれば直ちに校正を行っている。また、学生による授業改善アンケート結果を詳しく分析し、シラバスに関し指摘されている課題は、教授会の議題として詳しく取り上げ、全教員で課題を共有しシラバスの検証を絶えず行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <p>学生からの授業改善アンケート内容については、上記のように教授会で全教員が共有し、シラバスに沿って適正に授業が行われているかの検証を行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・成績評価は各教員が責任をもち厳正に単位認定を行っている。論文審査については主査(1)・副査(2)が審査を担当し、口述試験後は審査結果を主査、副査で照合し、相互に率直な意見交換を行い最終評価を厳正に行い合否を決定している。</p>	

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①教育成果の検証を研究科（専攻）ごとに定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・M1 は1回、M2 は年2回、合計3回の修士論文構想発表会・中間発表会を、全教員・全学生（M1、M2）の参加のもとで開催している。この研究発表の場では、研究の進捗状況や研究成果を明らかにし、指導担当以外の教員からも、研究に対するフィードバックを行っている。こうした個々の研究に対するフィードバックは、研究科の集団指導の場として機能し、また、全員で定期的に教育成果を検証し確認する場となっている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 学生による授業改善アンケート結果を執行部2名がまず詳しく検討し、その内容を教授会において全教員で共有し、各教員に結果をフィードバックしている。教育成果、教育内容・方法などの改善内容を教授会にて議論し、組織的に学生からの授業改善アンケート結果を有効に活用し、絶えず教育、指導の質的向上努力を熱心に行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科の学生の履修指導は、具体的な修士論文執筆から学位取得までの過程や学位授与基準をオリエンテーション時に明示するなど適切に行われている。特に、M1の研究構想発表会を年1回、M2の研究構想発表会、中間発表会を合計2回開催し、全教員と全学生が参加して、院生の研究能力の向上を図る取り組みは、組織的な教育方法として高く評価できる。成績評価と単位認定について、特に論文審査において厳正な審査を実施しており、教育成果の検証や学生による授業改善アンケート結果の有効活用など、教育と指導の質的向上の努力は高く評価できる。 シラバスは適切に作成されており、その内容は執行部が詳しくダブルチェックをしている。授業とシラバスの検証についても適切に行われている。

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】 「経営学、教育学と、隣接する学問分野をバックグラウンドにした個人のキャリアの学際的な解明」「企業、公共団体、NPO、大学・高校などでキャリア支援を担う高度職業人の養成」という教育理念を踏まえ、学位授与にあたっては、学際的な専門知識をベースにしながら自らの職業経験を生かした研究課題を設定し、社会調査の手法を駆使して実証的な課題解明ができることを重視する。	
4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C

(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。
 各授業内では個別の研究発表、討論、事例研究発表、課題提出などを実施し、学生に多様な研究発表の機会を与え、授業の理解度、その成果等を随時把握している。上記に述べたように、年 3 回の修士論文構想発表会・中間発表会においては、研究の進捗度や研究の深化レベル、研究の質を定期的に把握し指導を行っている。他に、修了生の学会発表、学会誌への論文投稿、出版物などからも、大学院での学習、研究成果を測定している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・院生・修了生の学会発表、論文一覧

4.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

①学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい いいえ

【学位論文審査基準の明示方法】 ※箇条書きで記入。

- ・学位基準は 2011 年に教授会において決定し学位授与基準を明確化している。学生には、入学後のガイダンスにおいて、学位基準を詳しく説明し明示している。また、修了生の修士論文集として「研究成果物」を冊子や CD-ROM にまとめ、院生全員に配布しており、学位論文の審査基準は成果集を通して明示し、あらかじめ学位基準に関する理解を促している。

【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。

- ・キャリアデザイン学研究科「研究成果物」

②学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。

- ・学位授与基準に基づいた厳正な論文審査を行うことにより、学位水準を適正に維持する努力を常に行っている。修士論文提出者に対する学位授与率はほぼ 100%である。また学位取得までの年限は約 90%強が 2 年間の修士課程を経て学位を取得している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

③学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。

A B C

入学時の新入生ガイダンスにおいて、学位基準を周知徹底させ学習に取り組ませている。年 3 回の修士論文構想発表会・中間発表会の場において、厳しいフィードバックを行い研究科一丸となって、高い研究水準を維持する取り組みを実施している。また、修士論文審査は主査（1）、副査（2）に加え、同席しているプログラム内の他教員も加わり審査を行い、論文審査における適正性を確保し、学位水準の維持を努力するための取り組みを行っている。

④学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入

キャリアデザイン研究科の学生は、現職を有する社会人のみであるため、入学時に学生の勤務先を把握している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）および（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科では学生の学習成果を測定するために、論文構想発表会や中間報告会を開催しており、学位の水準を保つために審査が適切に行われている。また、修了生の研究成果物を冊子や CD-ROM にまとめて、院生全員に配付していることは高く評価できる。学位授与率はほぼ 100%であり、2 年間における学位取得率も 90%と非常に高い点は、

他の研究科の模範となる成果であり、これも高く評価できる。

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

企業や公共団体、NPO、大学、高校等の機関で人事・教育・キャリア支援等を担当する方やキャリアコンサルタントとして、より高度な専門職を目指している方などを対象とした受け入れ方針を取っている。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

定員の充足率に関しては、2014年95%、2015年85%、2016年100%と推移している。3年間の平均は93.3%である。質を厳しく担保しつつも定員充足率を適正に管理している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・下記定員の充足率表参照

定員充足率 (2013～2015年度) (各年度5月1日現在)

種別\年度	2013	2014	2015	3年平均
入学定員	20名	20名	20名	—
入学者数	21名	19名	17名	—
入学定員充足率	1.05	0.95	0.85	0.95
収容定員	20名	40名	40名	—
在籍学生数	21名	40名	37名	—
収容定員充足率	1.05	1.00	0.93	0.99

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。

A B C

【検証体制および検証方法】※箇条書きで記入。

学生募集はホームページ、パンフレット、入学相談会、大学院シンポジウムなど、あらゆる機会を通して入学志願者に詳しい入試情報を提供している。今年度からは、研究計画書に関する説明会を行い、志願者の入学後の研究に関する質問に対し、具体的対応を行うことを計画している。入学者の選抜には全教員が携わり、入試結果の詳しい分析を行い、志願者とその傾向や課題を全員で共有し、入学者選抜に関する検証をその都度行っている。結果、2016年は定員充足率100%を達成することができた。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科のこの3年間の入学定員充足率の平均は、93.3%であり、非常に適切に管理され、2016年度

に入学定員充足率 100%を達成した点は他の研究科の模範となるものであり高く評価できる。また、2017 年度入試に向けて研究計画書に関する説明会を行うなど、その努力も評価したい。

ただし、受験資格に就業経験を必要としている点は、日本人受験生のみならず外国人留学生受験者にも、今以上に周知する方策を講じることを期待したい。

6 学生支援

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。

A B C

(～400 字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。

キャリアデザイン学研究科の応募者には留学生も存在するが、実際には入学には至っていない。このため、修学支援は行っていないが、今後、留学生の入学者がいる場合には、修学支援を丁寧に行う予定である。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科の志願者には留学生もいるとのことであるが、実際の入学者は過去 1 名のみで、その学生以外は入学に至っていないため、評価には該当しない。

7 内部質保証

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2015 年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。

・質保証委員会だけではなく、常に定例教授会においても、機会あるごとに質保証に関する話し合いや点検を実施し、積極的な意見交換や問題提起を行い検証を行っている。また年 2 回開催の質保証委員会では、授業改善アンケート、修士論文評価と指導の在り方等に関する振り返りを行い、研究科の質保証を意識した委員会活動、具体的な取り組みを実施している。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科の質保証委員会は、年 2 回開催され、授業改善アンケート、修士論文評価と指導の在り方等に関する振り返りを行い、その内容を教授会にフィードバックするなど適切に活動している。

【大学評価総評】

キャリアデザイン学研究科は、2013 年度に新たに設置された比較的新しい研究科であり、教育内容を段階的に充実・深化させている。特に、キャリアデザイン学会、大学院シンポジウムの開催、論文構想発表会・中間報告会を開催しており、その成果として、学位授与率はほぼ 100%であり、2 年間における学位取得率も 90%と非常に高い点は、組織的な取り組みとして、他の研究科の模範となる成果であり、大変優れたものと評価できる。

学生の全員が社会人であるものの、3 年間の入学定員充足率の平均は 93.3%であり、非常に適切に管理されており、2016 年度に定員充足率 100%を達成した点は、高く評価できる。また、2017 年度入試に向けて研究計画書に関する説明会を行うなど、志願者のニーズに応じた対応を行っていることも評価できる。ただし、大学院教育では理論と実証を重視することから就業経験が応募条件の一つになっており、就業経験のない学部生には卒業後すぐの大学院受験が無理と言えるが、学部生の時に将来的なキャリア教育という点からの組織的な教育を行うなどの方策を、研究科として模索することを期待したい。

大学院生の研究内容のグローバル化は進展しているものの、外国人留学生の受験者が少ないという点は国内の少子化の影響として今後問題になってくる可能性が高いため、出願要件の就業経験などの周知をする努力をしながら、現在学生でない別の分野の外国人留学生確保の努力も望みたい。今後とも学生の質を担保しつつ教育研究のグローバル化へのさらなる進展を期待したい。